

## 平成 30 年度 大岡公民館運営審議会（第 2 回） 開催概要

1 日 時 平成 31 年 2 月 18 日（月曜日） 午後 1 時 30 分から 3 時 00 分まで

2 場 所 大岡公民館 1 階 研修室

3 出席者 審議会委員 6 名

事務局 3 名

傍聴者 なし

### 4 審議事項

（1）平成 30 年度大岡公民館事業実施状況について

（2）平成 31 年度大岡公民館事業計画について

### 5 議事概要

（1）平成 30 年度大岡公民館事業実施状況について

事務局から、平成 30 年度大岡公民館実施状況を説明

（2）平成 31 年度大岡公民館事業計画について

事務局から、平成 31 年度大岡公民館事業計画案を説明

これに対し、委員から以下の提案や意見が出された。

委員：夜間のスポーツ吹き矢の開催時間帯は。

事務局：18 時 30 分から 20 時だ。最終回にゲームをやったところ盛り上がった。

委員：水中昆虫調査は、講師がそばにいてすぐ聞けるところがよかった。

山村留学の子どもにとって沢や田んぼに入ることは貴重な体験だ。

事務局：暑さ対策に注意を払った。小ひじりの沢や無農薬で耕作している田んぼの 2 か所をバスで移動した。

委員：調査した結果を写真に撮るとか水槽に入れるなどして残せないか。

事務局：タララ池からクロサンショウウオの卵を水槽にいれて孵化させてみた。

委員：表札や書道をやったら発表することも大事。記録写真も掲示してほしい。

委員：ひょうたんのデザインは難しくないか。

事務局：デザインよりも、栽培したひょうたんを加工できる状態にするのが難しい。大岡は気温が低いので中身を腐らせて取り出すことが課題だ。場所や天候に左右されやすい。

委員：結果を発表したり記録に残すことが大事。冊子にはできないか。毎年積み重ねてはどうか。

委員：菊づくりはなぜ中止した。

- 事務局：講師の高齢化で辞退したのがきっかけだが、参加者も減っている。
- 委員：実際菊の栽培管理は手間のいる仕事だ。大豆島の「巴錦」は難しい。
- 事務局：何十年も同じ講座をやるのでなく、自主性を持たせグループ化を目指していきたい。
- 委員：土づくりに一年かかる。菊用の土を買うとなると高い。
- 委員：年齢に合った講座はないか。
- 事務局：スポーツ吹き矢は来年度夜と昼も開催して、高齢者にも出やすくする。
- 委員：しめ縄づくりの後継者育成には、芦ノ尻地区の講習会参加はどうか。
- 委員：中学生と一緒に倣うのはレベル差がありすぎて難しいと思う。
- 委員：そば打ちのリーダー養成はぜひやってほしい。収穫祭でそばを打つ人が必要だ。
- 委員：星空観察会は委員の池田校長先生が講師になれる。
- 委員：星空観察は明かりがなく建物が近くにあることも天気が変わった場合に必要だ。
- 委員：防災講座は住自協の委員の研修にもなる。大岡出身の人が講師か。
- 委員：大岡出身で危機管理防災課の吉原さんだ。
- 委員：しょうゆ搾りの先生はどういう人だ。
- 事務局：今大岡に住んでいるが元は信州新町でしょうゆ搾りの技術を開発した萩原さん（故人）から伝承された岩崎さんだ。
- 委員：炭焼き体験は実施してほしい。子どもたちが楽しみにしている。他ではできない体験だ。
- 委員：道祖神祭りには記念館の見学があって、保存会の方に説明してもらってよかったです。学びになった。トン汁もおいしかった。
- 委員：保存会も年々高齢化が進んでいるようだが。
- 委員：今はパートを持ち寄り組み立てやすくしている。
- 委員：農業生産講座とは。
- 事務局：普及所の職員を考えている。G A Pなど安全安心のための認証制度など農協を巻き込んで学びたい。その他にラベンダーづくりを始めたい。
- 委員：ラベンダーの栽培を教えてもらえばありがたい。
- 委員：東京にいる孫が原因不明の不登校になり悩んでいる。
- 事務局：生きるエネルギーを取り戻すには食との関係があるのでは。
- 委員：山村留学生のお菓子の食べすぎも気になる。あまりに殺菌しすぎて体がおかしくなっているのではないか。
- 事務局：そういう課題も視野に入れながら食を生産する農業のあり方を考える講座を企画していきたい。